

建築事務所が
考える

子どもがのびのび 育つ園舎づくり

設計事例集



◎ そのとの保育園

◎ ひまわり館（学童クラブ）

◎ 島名杉の子保育園

◎ はなのわ保育園



DATA
 事業主/社会福祉法人 陽光会
 用途地域/工業地域
 敷地面積/649.58㎡(196.50坪)
 建築面積/149.06㎡(45.91坪)
 延床面積/120.90㎡(36.57坪)
 構造/用途/木造(在来工法)平屋建て
 学童施設
 竣工/2012年10月
 施工/(株)松永工務店



学童クラブは、小学校1年生から6年生までが、放課後から午後7時頃まで、また夏休みや春休みなどは丸一日過ごす場所。先生方との話し合いから、学校施設の延長でなく、年齢や個性の違う子供達が、思い思いの過ごし方ができる場所、まるでおじいちゃんおばあちゃんの家にいる様な、のびのびとした家庭的な建物

大きな大黒柱のあるホールを中心に、図書室、調理室の3つのゾーンから構成し、正面には畑が一望できる大きなデッキテラスが繋がります。集団生活の中にも、個人の居場所がきちんとあることを大切に設計しました。
 宿題をしたり、おやつを作ったり、友達と走り回ったりと、家にいるような居心地を感じてすごして欲しいと思います。

ひまわり館 (学童クラブ)

社会福祉法人陽光会 その保育園
 〒315 0031 茨城県石岡市東大橋16411



おじいちゃん、おばあちゃんの家で過ごすような、家庭的な学童クラブづくり

となるよう計画しました。



そとの保育園



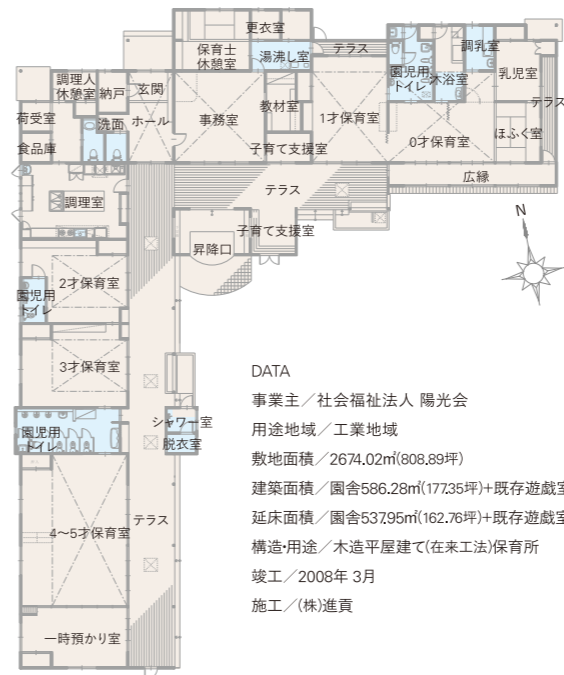
木々に囲まれた、いつか、懐かしく憶う、子供たちの居場所

社会福祉法人陽光会 その保育園
 〒315 0031 茨城県石岡市東大橋16392

自然の中で子供を教育することが理念。子どもたちが安心して過ごせる場所づくりを心がけた「豊かな園舎」。自然と一体になれる空間こそ、生活するのに一番安心できる場所だと考えました。

明るい光がさし込み風の通る園舎は、子どもたちが元気に走り回る空間。自ずと健康と情操を育みます。園庭と一体の大きなテラスは運動場やランチルームに。冬には透明なスクリーンを閉めるとポカポカのウイン

ターガーデンに早変わりです。建材には地場産材の杉や檜、壁には珪藻土を使用しています。化学物質のない室内は、子どもたちの肌に触れても、床に寝ころんでも安心です。
 のびのび遊び、走り回る空間と子供の健康そして、子供達がいつか大きくなったとき、ここを懐かしいと思ってもらえるようなになればと思います。



DATA
 事業主/社会福祉法人 陽光会
 用途地域/工業地域
 敷地面積/2674.02㎡(808.89坪)
 建築面積/園舎586.28㎡(177.35坪)+既存遊戯室69.56㎡(21.04坪)
 延床面積/園舎537.95㎡(162.76坪)+既存遊戯室59.62㎡(18.04坪)
 構造/用途/木造平屋建て(在来工法)保育所
 竣工/2008年3月
 施工/(株)進貢



屋根のあるウッドデッキテラスは雨でも、真夏でも外遊びができます。



大黒柱のあるホールは、子供達がのびのびと過ごせる開放的な木の空間です。



島名杉の子保育園

社会福祉法人いなほ会 島名杉の子保育園
〒300-2662 茨城県つくば市下河原崎4-208

地域性を活かした自然環境との共生を実感できる特徴ある園舎づくり

T×開通により園児数が増える中で耐震問題や老朽化、手狭になったこと等により園舎の建てかえが計画されました。

保育園の将来像をどう見定め具現化し社会のニーズに答えていくか、先生方と設計者で様々に検討しました。結果、地域性を活かした自然環境との共生を実感できる特徴ある園舎づくりとなりました。

先生方との話し合いを通して、創造性豊かな子供たちを、年齢で区切るのではなく子供の個性や創造性を大切に空間とすること、子供の健康や環境問題へ配慮すること、地域子育ての拠点としての機能性との一体化が設計のテーマとなりました。

空間構成(可変的な空間)

各保育室は乳児を除き、壁で区切らず可動間仕切りとして、子供たちの多様な行動に対応したゾーン分けとして設計しました。保育室はオープンとし、デッキテラス、曲がりくねった壁や太い杉の柱、狭いコーナーなど変化の多い空間で構成し、子供たちの創造力や情操を育む空間を

指したものとなっています。

エコロジーな園舎(木の空間)

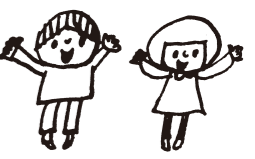
環境保全、温もりのある空間、伝統技術の継承の面からこの建物は木造で作りました。茨城県産木材(檜八溝杉)を主に使用しています。テラスや螺旋階段には建築空間のシンボルとして樹齢100年の杉丸太を使用しました。

エコ・マテリアル

子供達の身体に安全で安心な空間であること、自然素材であることに徹底し、柿渋、珪藻土、抗酸化リバーシ工法を取り入れました。創造性に溢れる子供たちに多様な木の空間で茨城の樹の世界観を肌で感じながら育てて欲しいと願っています。



檜・杉で作った緑側的なテラスは、外と中を緩やかに繋ぎます。



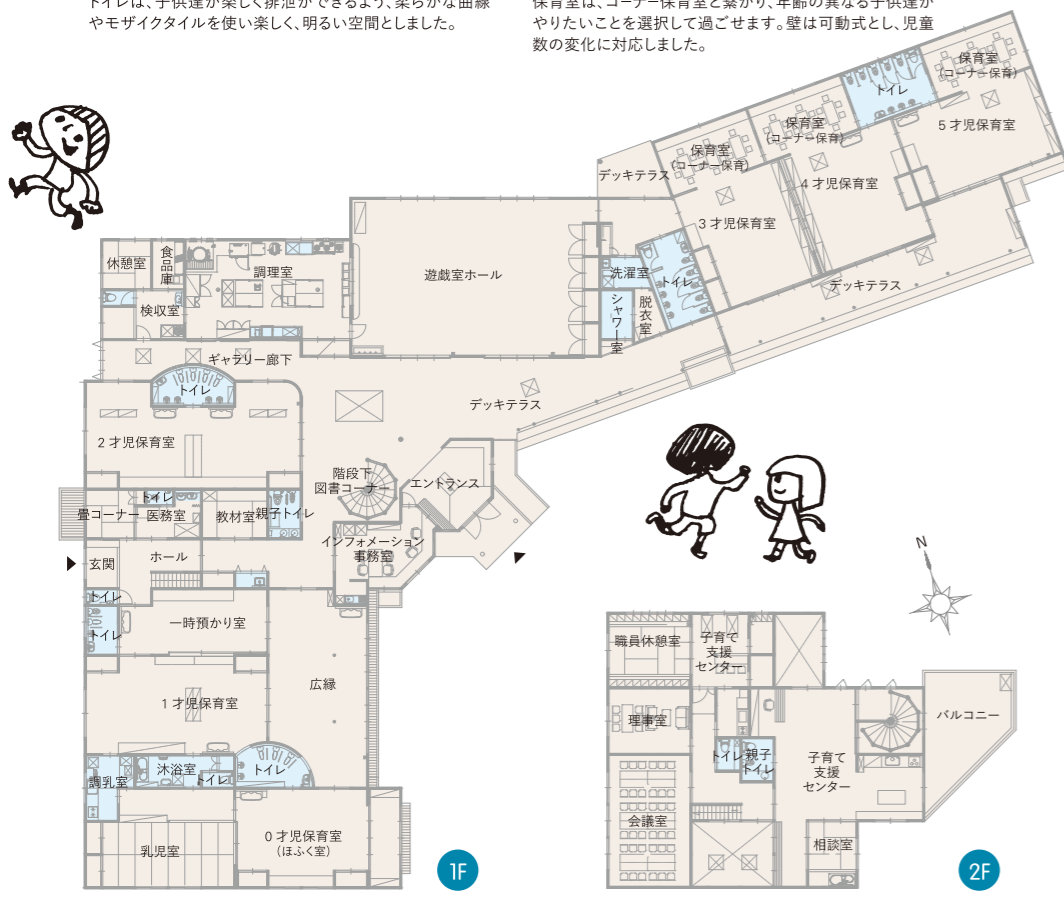
園庭より園舎を眺める。園舎はアースカラーでまとめ柔らかいイメージ。中央共用部より左が乳児ゾーン、右が幼児ゾーン。



トイレは、子供達楽しく排泄ができるよう、柔らかな曲線やモザイクタイルを使い楽しく、明るい空間としました。

保育室は、コーナー保育室と繋がり、年齢の異なる子供達がやりたいことを選択して過ごせます。壁は可動式とし、児童数の変化に対応しました。

地域の子育ての拠点となる子育て支援センター。多様なプログラムに対応できる機能を持ち合わせている。



DATA
事業主/社会福祉法人いなほ会
用途地域/未指定(市街化調整区域)
敷地面積/3767.21㎡(1139.58坪)
建築面積/1081.63㎡(327.19坪)
建蔽率/28.72%(許容60%)
延べ床面積/1225.24㎡(370.06坪)
容積率/32.53%(許容200%)
耐火建築物/準耐火建築物(イ)
構造/木造(在来工法)2階建て
竣工/2011年3月
施工/ライフプロジェクト(株)



遊戯室兼ランチルームにて



園舎のシンボルツリーとなる樹齢100年の八溝杉の磨き丸太を中心とした木製螺旋階段



5才児は仲間関係がさらに深まり、お互い刺激し合いながら育っていく



2階まで続く柱とベンチが印象的なホールは子供たちが歌い、リズムする場所

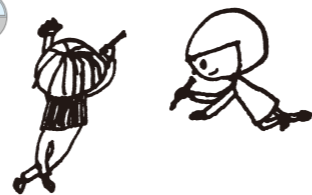


園舎外観、大屋根と木の温もりを感じる、山小屋をイメージした設計の園舎



DATA

事業主／社会福祉法人 はなのわ学園
 用途地域／第1種中高住専
 (土地区画整理事業地区)
 敷地面積／2176.93㎡(658.65坪)
 建築面積／592.67㎡(179.31坪)
 その他の建物17.49㎡(5.29坪)
 建蔽率／28.03%(許容60%)
 延べ床面積／987.19㎡(298.68坪)
 その他の建物17.49㎡(5.29坪)
 容積率／46.16%(許容200%)
 耐火建築物／準耐火建築物(イ)
 構造／木造(ラーメン工法)2階建て
 竣工／2012年4月
 施工／(株)三共建設



い、皆で踊ったり歌ったり遊んだり、一日楽しく過ごせる場となりました。ホール上部は、天窓のある大きな吹抜けとなっていて1・2階の空間を一つに繋げています。また、ハイハイの赤ちゃんでも登れる、緩やかな檜の階段は、冒険心溢れる子供たちの遊具としてもデザインしました。2階プランは、中央に吹抜け、南側にウッドデッキを設け、遊戯室を中心に全体的に開放感のある空間としました。また、読書コーナーの様な小さな空間も併せて構成し、開放的な中にも、落ち着ける場所も大切にしました。

建材は、化学物質を避けて、地産産の杉・檜、土(珪藻土)、植物油の塗料と自然素材を使用しました。

創造性溢れる子供達に遊びながら、自然の持つ美しさや、心地よさを肌で感じて欲しい、そんな願いを込めて設計をしました。構造は木造(大断面集成材)ラーメン工法。

大きな木々に包まれて、まるで森の中にいる様な、大らかで温もりのある園舎をイメージしました。

社会福祉法人はなのわ学園 はなのわ保育園
 〒312-0052 茨城県ひたちなか市東石川2632



図書コーナー、自分で好きな絵本を選び、ページをめくる。子どもたちの大好きな空間。



対話による園舎づくり



吉田建築計画事務所
所長 吉田 良一

私は設計にあたっては、まず「対話を大切にしています。園長先生や理事長からは、園の理念や教育方針、また、創設時から本日まで経過、そして将来の夢や構想。現場の先生方からは、子供たちの一日の様子や時間ごとの行動、収納や水廻り、厨房の使い勝手など多岐にわたり現況と改善点などを聞かせて頂きます。

次に、園舎は子供たちのもう一つの家と考えています。家は第3の皮膚とも言われており、その為に子供たちの身の安全・安心を徹底し、化学物質を避けて地場産材の杉・檜や珪藻土・漆喰といった自然素材による園舎づくりをしています。併せて太陽光発電など自然エネルギーも積極的に活用しています。

創造性に溢れる子供達が遊びながらに自然の持つ美しさや、心地よさを肌で感じながら成長して欲しい、そんな願いを込めた夢の形づくりを園の皆様と共に実現させていきます。

吉田 良一

1967年茨城県生まれ。一級建築士。マトリックス都市建築設計事務所を経て、1993年吉田建築計画事務所設立。

施主さまの声

社会福祉法人陽光会 そのの保育園 藤枝節子園長

園舎を建て替えるなら、木造で現在のようないい設計にしてほしい。親の要望でもあった園舎建設の計画は設計士探しから始めました。ネットで全国各地を探していたところ、当市に木造にこだわって設計している吉田さんとの出会いで、それは本当にラッキーでした。

園舎と園庭が一体となっている空間と、子どもに優しい環境をと、壁や床にまで徹底して積極的な提案をしてくださいました。私にとって床に裸足でごろんと寝そべって遊ぶ子どもたちの姿を見るのは至福の気分です。

社会福祉法人いなほ会 島名杉の子保育園
松本奈保子園長

開放的な間取りとあわせすべて木造にこだわられた園舎は、贅沢な空間のみでなく何故か「ほっと」できる、常に暖かさに触れていられるような安心できる生活の場になっています。木の香りは、情緒安定剤でもあり伸び伸びと育つ子どもたち。素足で走り去る足音は靴の音と異なり心地良い。床に寝ころび戯れる子の姿に、日々の生活の中で自然を肌で感じて欲しいと願う思いが建物からも感じられ嬉しく思います。

社会福祉法人はなのわ学園 はなのわ保育園
坂主恵子園長

わが園では、幼児期の土台づくりのひとつとして、丈夫な体と感性を培うため、素足・薄着の生活をしています。平成24年4月完成の園舎は、願いどおりのものでした。檜の床・杉材珪藻土を使い、夏はひんやり冬はほんのりと、森林浴のように清々しい、ゆったりとした気分で過ごしています。園周辺が宅地化し、昔あった麦畑・田んぼ、林も姿をけしたなか、木づくりの生活空間は、子どもたちにとって得がたいものとなっています。

優しさと強さを兼ね備えた木の園舎



木はココロにカラダにやさしい

建物は第三の皮膚と呼ばれます。地場産木材は、木の温もりに加え、化学物質を含まないので、子供たちの健康に安全で安心です。また、杉や桧は調湿効果が高く結露やカビの発生を防ぐなど、快適な室内空間を作り出します。



木は地震に、火災に強い

木造ラーメン工法の特徴は木造ながら、鉄骨造や鉄筋コンクリート造と同等の耐震性能を保有します。防火については1000°C以上でも必要強度が保たれます。(鉄骨は500~800°Cで軟化・崩壊)また調湿効果があり、結露やカビが発生しません。



木の園舎はエコロジー

地場産木材の利用や太陽光発電はCO2の排出を抑えると共に、生態系の循環に繋がります。また、木を使用した園舎には夏涼しく冬暖かいという特性があり、冷暖房費など省エネ効果も大きくなります。



YOSHIDA Architects Design Office
(有)吉田建築計画事務所(1級建築士事務所)

□本社
〒315-0001 石岡市石岡1-1-8
tel.0299-56-3246

□つくば事務所
〒305-0047 つくば市千現2-1-6
tel.029-854-0203

<http://www.iezukuri.co.jp/>



吉田建築計画事務所
の作品集を差し上げます。
申込みは、MAIL、電話、FAXにて受け付けております。
お気軽にご連絡ください。

mail | info@iezukuri.co.jp
Tel | 0299-56-3246
Fax | 0299-56-3248